

砂栽培の可能性

「シェアリング」、「地域」、「共同研究」、「障がい者」をテーマに農業の可能性について

概要

ATR様敷地内にあるトレファームラボは、トレファーム事業の実証の場として「シェアリング農業の実践」、「地域のさまざまな学校や団体との協業」、「大学や企業との共同研究」、「障がい者の就労」をテーマとし、かつ地域に開かれた農園として運営してきました。これまでの活動総括と、今後広がる農業の可能性をご紹介します。

特徴

■ シェアリング農業の実践

2017年にATR様と協働で開始したプロジェクトが進化し、より地域の方に利用される施設として市民農園と農福連携の長所を掛け合わせた仕組みです。

■ 大学や企業との共同研究

東京農業大学、大阪公立大学、日本郵便様とともに研究を重ねています。成果として、フルーツトマトが日本郵便様から「さやまる」ブランドで販売されています。

■ 障がい者の就労

全国で多数の福祉施設にご導入にいただいております。様々な障がいをお持ちの方が活躍できる場として有効性が実証されています。

今後の展開

- 砂栽培は農作物を育てる作業をシェアすることで、老若男女を問わず障がいのある方も農業初心者の方も、笑顔をシェアできる農園です。ATR様にはスタートアップ企業との連携を行なっていただき、新たな可能性を見出しています。

テーマ「ともに究め、明日の社会を拓く」との関連

- ATR様に農園を開設して6年が経過しました。地域住民の方を始めとして、地元のNPO法人(プラッツ様他)に活用いただき、地域の支援学校(南山城支援学校他)の生徒さんにもお越しいただき、開かれた農園として運営しています。



(支援学校の体験学習)

(フルーツトマト)

(シェアリング・ファーム)

(障がい者就労)

